



発行：新潟県青少年健全育成県民会議
～若い芽を 伸ばす新潟 広がる未来～



〒950-8570

新潟市中央区新光町4番地1 (県こども家庭課内)

電話 025-280-5926 (直通)

E-mail ngt040270@pref.niigata.lg.jp



1年間を振り返って

新潟県青少年健全育成県民会議

会長 薄田泰元

日頃より、会員の皆さまにおかれましては、私ども青少年健全育成県民会議の運営に対し、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、当県民会議では、昨年9月21日(日)に新発田市民文化会館で「令和7年度わたしの主張新潟県大会」を開催いたしました。146校15,544編の応募の中から、各地区大会での厳しい審査を経て選ばれた代表者の皆さんによる堂々とした発表は、日頃の身の回りの出来事への関心の高さ、そして、自分の思いを聞き手に届けようという真っ直ぐな姿勢が感じられ、大変感動しました。また、アトラクションとして、新発田中央高校吹奏楽部の皆さんからも素晴らしい演奏をしていただきました。

さらに、11月の「秋のこどもまんなか月間」の取組として、「大人が変われば子どもも変わる!!」をテーマしたラジオCMを今年もFM新潟で放送するとともに、同内容の動画をYouTube広告で配信し、多くの方にご覧いただきました。例年県との共催で開催している「青少年健全育成県民大会」では、新潟市の坂井輪中学校区青少年育成協議会、及び柏崎市青少年健全育成市民会議の皆様から、地域に根差した日頃の青少年育成活動の成果を発表していただくとともに、「デジタル時代のこどもたちと歩む～われわれ大人にできること～」と題し、一般社団法人セーファーインターネット協会主席研究員の高橋大洋様から御講演をいただきました。当日お越しいただいた皆様から「新しい学びや気づきがあった」といった声もいただくなど、大変好評でした。

次代を担う青少年の健やかな成長を促していくことは我々大人の責務です。県民会議といたしましても、様々なツールや手法を用い、また、行政や関係団体と連携を深めながら、青少年健全育成活動の一層の推進に努めてまいりたいと考えております。引き続き、皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年度わたしの主張新潟県大会

令和7年9月21日（日）に新発田市民文化会館で「令和7年度わたしの主張新潟県大会」を開催しました。

本大会は、中学生が日頃考えている清新かつ建設的な意見を発表する機会を設け、その意見を発表することにより、自らが健康な心身づくりに努めるとともに、県民の皆さんの青少年健全育成に対する理解を深めることを目的としています。

今年度は、県内146校から15,544編の応募があり、各地区大会での厳しい審査を経て代表として選ばれた15名が参加しました。

出場者の皆さんをはじめ、学校の先生方や関係者の方々からのご協力により、つつがなく実施することができました。この場をお借りして、ご尽力いただきました関係者の皆様には厚くお礼を申し上げます。

本誌では、最優秀賞と優秀賞を受賞した主張を紹介します。

令和7年度わたしの主張新潟県大会 結果一覧表

賞	題名	学校名	氏名
最優秀賞	いってらっしゃい、おかえり	新発田市立川東中学校	宮村 萌々香
優秀賞	私の「できること」	新潟県立佐渡中等教育学校	土屋 侗 歌
優秀賞	私たちの未来は	村上市立村上第一中学校	富 樫 歌
審査員特別賞	スモールステップから始めよう	長岡市立北中学校	山田 実 緒
審査員特別賞	うまく話せない私が伝えたいこと	三条市立第三中学校	横山 和 奏
奨励賞	努力の価値	小千谷市立南中学校	中島 芽 生
奨励賞	「紙の本」が人を伸ばす	魚沼市立小出中学校	高橋 心 空
奨励賞	自分を認める僕	柏崎市立第一中学校	磯部 海 星
奨励賞	私の夢は「小学校の先生」	糸魚川市立青海中学校	仲谷 梓
奨励賞	本当の友達	十日町市立十日町中学校	村山 綾
奨励賞	温かい心は勇気から	湯沢町立湯沢中学校	剣持 一 花
奨励賞	小さな気付きを見逃さない	上越市立清里中学校	長谷部 知 世
奨励賞	過去から学ぶ未来	五泉市立村松桜中学校	渡 邊 心
奨励賞	一番の理解者	燕市立小池中学校	桑田 そら
奨励賞	新潟を守る私たちの一歩	新潟市立下山中学校	白井 菜 都

※敬称略。奨励賞は発表順に掲載。

大会に参加された多くの中学生の皆さんをはじめ、地区大会・県大会の開催にあたり、ご協力いただきました関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

なお、県の公式YouTubeチャンネルでは県大会の様子を掲載しております。

また、県ホームページでは、各地区大会の結果も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



新潟県 わたしの主張



で検索してください！

◆最優秀賞◆



いってらっしゃい、おかえり

新発田市立川東中学校 3年 宮村 萌々香さん

私の母はがん患者です。

母が乳がんと診断されたとき、私は小学6年生で、母ががんになるなんて信じられませんでした。それまでの母はいつも元気で家族を支えてくれる存在だったからです。母は私と弟を不安にさせないようにいつもと変わらず明るく接してくれました。けれど私は、がんがどんな病気なのか、治療法は何なのか、すべてが分からず小6の私は不安で暗闇の中に落とされたような気持ちになりました。

母が手術のために入院した一週間は家に帰っても暗く、静かで寂しい思いをしました。「たった一週間だ。」と分かっているのに母が恋しく早く帰ってきてもらいたかったです。一方でそのときの自分の「母がなくて寂しい」という感情はわがままなように思え、自分で自分が嫌になることもありました。

手術が終わり、3か月に1回の通院が日常になった中一の冬。お風呂上がりの母が「しこりがある」とつぶやきました。「ただの骨じゃない？」と私は母に返しましたが、今思えば、再発への不安を打ち消したかっただけだと思います。

父と一緒に検査結果を聞きに行った母を待つ間、弟と二人で留守番をしていました。墨で塗ったような真っ暗な外を眺めていると、一本の電話が鳴りました。

「再発していた。」

その言葉の意味を私はうまく飲み込めませんでした。私は何とも言えない悲しい気持ちになりました。初めにがんと宣告された時より、何倍も悲しかったです。

あれから、2年。今、母は抗がん剤治療を受けています。転移したがんは手術で摘出できるものではなく、薬物治療を進めるしかありません。命を守るためとはいえ、髪がどんどん抜けていく母を見ているのはつらかったです。

私はがんが憎いです。母を苦しめているがんを憎

んでいます。ですが、母の病気はつらさや悲しみだけではなく私の心を成長させてくれたきっかけにもなりました。

皆さんは「あたりまえ」の日常を大切にしていますか？家族がいてくれることに感謝していますか？

皆さんにとって髪の毛があるお母さんは当たり前かもしれないけど私にとって当たり前ではありません。がんは私に自分を守り、支えてくれる存在がそこにいてくれることは当たり前ではないということを知りました。「ハゲ」という言葉がどんなに人の心をえぐるのか、自分の口から出る言葉の重みと周りの人への配慮を知りました。そして、何よりそこに母がいるありがたさ、いてくれることへの感謝が生まれました。

「自分を隠すつもりはない」と、母はがんに押しつぶされず未来に向かって進んでいます。私はそんな芯が強い母を心の底から尊敬しているし、母のような大人になりたいです。だから母には、立派な大人になっていく姿をずっとそばで見守って欲しいと思っています。「いってらっしゃい」と送り出し、「おかえり」と迎えてくれる毎日がずっと続いて欲しいと願っています。

母の病とともに歩む生活環境は私を大きく成長させてくれました。家族がいることは当たり前じゃない、命の大切さ、支え合って生きること、今の母の姿からどんなにつらいことがあっても簡単に諦めてはいけないということも学びました。がんは5年間再発しなければ完治と言われています。完治までには時間がありますが、私たち家族は祈りながら「その日」を待っています。そして私はこれからも私のそばに母がいることに感謝して命を大事に毎日を大事に生きていこうと思います。だから私は毎日笑顔で言います。

「お母さん、いってきます。」

◆優秀賞◆



私の「できること」

新潟県立佐渡中等教育学校 3年 土屋 俐歌さん

皆さんはゴミのポイ捨てをしてしまったことがありますか？私は小学生の頃、一度だけしたことがあります。その時は周りにゴミ箱がなく、家にすぐ帰ることができなかったので、近くの茂みに捨ててしまいました。

ですがその後、私は衝撃的なニュースを見て二度とポイ捨てをしなくなりました。その内容は「ポイ捨てによるゴミを野生動物が食べてしまい、健康に被害が及んでいる」というものでした。ポイ捨てをすることが悪いことだとは知っていたけれど、大好きな動物にまで影響があるなんて考えていなかったのです。私はとても大きな罪悪感に駆られ、「この前捨てたゴミを、野良猫や鳥が食べていたらどうしよう」と、ずっと心配していました。

そんな時、父からこんなことを言われました。「なあ俐歌、今度町内のゴミ拾いがあるらしいけど、行くか？」それを聞いた瞬間私は、「それだ！」となりました。捨ててしまったことは変えられないけれど、ゴミを回収して正しい場所に捨てれば、動物たちを守れるかもしれない。期待で胸が熱くなりました。

当日私は町の皆さんと一緒に、林や草の中、海の近くでゴミを拾いました。暑い日で疲れましたが、達成感がそれを上回っていました。ですが、その達成感以上に私の心に残ったことがあります。それは、ゴミが想像以上に多かったことです。私はずっと、佐渡は綺麗だと思っていました。しかし、ペットボトルや缶のような日常生活でよく目にするものから、漁業で使う道具まで、様々なものが至る所に落ちていました。そこで私は、初めてゴミ問題の深刻さに気が付いたのです。

その日の午後、私がゴミ問題について自分に何ができるか考えていたとき、祖父が私に「不法投棄監視員」として活動していた時の話をしてくれました。不法投棄監視員とは、その名のとおり不法投棄を未然に防ぐために市から頼まれた人のことです。祖父は看板を立てたり、地域の人と一緒にゴミ拾いをしたりしたと話しました。しかし、長年そういった活動をしていてもゴミ問題はなくなっていません。何故だろうという疑問が私の中に残りました。

それは中学生になってからも、消えることはありませんでした。令和になり、ニュースやSNSなどで取り上げられることが増えても、ポイ捨てはなくなりません。謎は深まるばかりでした。

しかし、2年生の時の授業で「同調効果」について学んだ時、ピンときたことが二つありました。

一つは、これがゴミ問題の原因だということです。同調効果とは、周囲の人の行動や意見に自分も無意識に合わせてしまうという心理現象のことです。これによって、ポイ捨てや落ちているゴミを見た人も、ゴミを捨ててしまうのです。

そしてもう一つは、これを逆手に取ればゴミ問題や他の問題の解決に繋げることができるのでは、ということです。例えば、あなたの身近な人がゴミ拾いをしていたら、あなたはポイ捨てをやめると思います。つまり、同調効果はプラスにも働かせることができるのです。

私はこの考えを思いついてすぐ、環境保護活動を始めたいと思いました。私の行動から佐渡を守る活動を広められるなら、広めたいと思ったのです。おそらく私の友達や、知り合い、知らない人でも、私の行動を見ると、少し意識が変わると思います。更にそこから、「自分もやってみようかな」と思う人が必ず出てきます。つまり、自分からやっただけでも、佐渡を守りたいという輪が広がっていくかもしれないのです。

ですが、それは簡単なことではありません。今まで活動してきた人がいるにもかかわらず、課題は解決していないのですから、かなり難しいことだと理解もしています。それでも私には今、二つのアドバンテージがあります。それは、原因の一つが分かっていることと、SNSが使えるということです。更に、未来のために佐渡を、ゴミ一つ落ちていない綺麗な島にしたいという熱量もあります。ただただ、現実を見て諦めるのではなく、それを打開できるよう、私は私の「できること」を考えて、精一杯頑張ります。皆さんも自分自身にできることを、少しでももしてみてください。その一つ一つの行動が、ゴミが一つも落ちていない美しい佐渡の、実現につながるのです。

◆優秀賞◆



私たちの未来は

村上市立村上第一中学校 3年 富樫 歌さん

朝起きて、学校に行って勉強し、友達と笑い、楽器を奏でて帰ってくる。それからご飯を食べて、お風呂に入って、スマホをいじって寝る。ほぼ毎日、そんな生活を送っています。こんな何気なく続く毎日で、私は人の温かさや物事に対するありがたさを実感しています。この愛おしい日々が、知らない誰かに振り回され、失われてしまうことがたまらなく怖い。

私が生きる平成・令和は、日本にとって戦争がない時代です。「戦争は遠い昔の出来事で、自分には関係ないこと」と心のどこかで思っていました。しかし、ある出来事をきっかけにそれは一変しました。2022年、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始し、戦争が始まったのです。翌年、今度は中東のイスラエルとイスラム主義組織ハマスの戦争が始まりました。テレビは連日戦争のニュースを伝え、日本に亡命する人たちの特集記事も組まれました。これまで遠く感じていた戦争が、一気に日常に入り込んできたのです。メディアを通して戦争に触れるたび、私は恐怖を感じました。あれから4年、世界情勢の変化とともに、日本の軍事費拡大の動きも出てきています。「恒久平和」をリードしてきた先進国が、今や核を保有して他国と牽制し合っている…教科書で習った恐ろしく、おぞましい大戦が、ひたひたと近づいているような気がしてなりません。

ウクライナの子供が泣きながらインタビューに答える映像に心がえぐられました。毎日友達と笑っていた、温かいご飯を食べられていた、自分の家で安心して眠っていた…それが突然、銃声が鳴り響く毎日になったという。顔も知らない大人が勝手に決めた戦争のせいで、子供たちが傷ついている姿に涙が出ました。愛する家族を失った子供が、対戦国に恨みを抱きながら大人になっていくのです。大人達が銃を置く日が来たとしても、国と国とが手を取り合って何かを作っていく時代を、この子供が作れるのでしょうか。私はそうは思いません。

80年前、6年間続いた第二次世界大戦が幕を閉じました。何万人もの未来ある人達が犠牲になった果てに。きっと、その一人一人に帰る家があって、大切な人がいて、失いたくないものがある…。誰も望んでいない戦争のせいで、抗うことなくみんな失ったのです。戦争って、一体誰のためのものなのでしょうか。

日本では戦時中、「国民は国のために尽くすもの」「お国のために死ぬことは尊いこと」と教えられて、子供達は育ちました。敵の軍艦に特攻をした青年も、空襲で家族を失った人も、空腹をこらえてじっと身を隠していた子供達も、「国のため」と自分に言い聞かせていたことでしょうか。「国」って何ですか。私達一人一人が「国」そのものじゃないんですか。戦争は「国益」のためと言いますが、その中で未来ある若者の命が失われていく。苦しみの果てに、子供の心に恨みの炎が宿っていく。そんなことが、本当に国の利益なのでしょうか。それで国は豊かになるのでしょうか。

日本は世界で唯一の被爆国です。悲劇を繰り返さないために、日本はもっと世界に戦争の痛みを伝えていかなければならないと思います。被爆者をはじめ、戦争の痛みを知る人達は少なくなっています。核爆弾の所有国が増えている今、恨みの炎をこれ以上大きくしてはならないと思います。

平和な日常はいつ壊れてもおかしくない。そんなバランスの上に、今の世の中はあると思います。この愛おしい日々を、大切なものを、世界の誰もが失いたくないはず。だから私は大きな声で「戦争反対」と叫びたい。「私達の幸せを守ってほしい」「私達の未来を守ってほしい」その意思を表すことが、今の私達にはできるのだから。

令和7年度青少年健全育成県民大会を開催しました

令和7年11月15日（土）に新潟県立生涯学習推進センターにて青少年健全育成県民大会を開催しましたので、当日の様子をご紹介します。

青少年健全育成功労者県知事表彰

長年にわたり青少年健全育成活動に御尽力された功労者及び功労団体への県知事表彰表彰式が行われました。

今年度は4名が功労者表彰、1団体が団体表彰を受けられました。

【受賞者（敬称略）】

今井 和彦	（長岡市）	
清水 芳夫	（見附市）	
堀 善一	（三条市）	
山本 亮子	（上越市）	※表彰式は御欠席
比角地区子ども育成会	（柏崎市）	



実践事例発表

地域に根差した青少年の育成活動に取り組む2団体より、日頃の活動の成果を発表していただきました。

(1) 坂井輪中学校区青少年育成協議会（新潟市）

新規事業「坂井輪ふれあい広場」では、ステージ発表やブースの設置、キッチンカーの出店等、中学生が主体となって発案・企画・運営を行い、当日は500名以上の来場があったとのことでした。

また、こどもたちの危機回避能力を高めるための「地域安全マップ作成会」の取組では、こども達がフィールドワークを通して地域の安全な場所、危険な場所についてマップを作成するとともに、作成したマップは「ぼうさいこくたい2025」でも展示されたとのことでした。



↑「坂井輪ふれあい広場」の様子

(2) 柏崎市青少年健全育成市民会議

こどもたちの大自然とのふれあい等を目的としたウォーキングイベントに加え、こどもを取り巻くネット環境をテーマに毎年開催している「青少年健全育成大集会」では、講演やシンポジウム、実践研修等によりこどものメディア利用への地域の理解を深めてきたということでした。

また地元中学生、地域の大人がそれぞれ主体となり「中学生メディア共同宣言」「大人メディア宣言」を作成、教育現場においても宣言の内容に沿った指導が行われているということでした。



↑「青少年健全育成大集会」の様子

記念講演

一般社団法人セーフアーインターネット協会 主席研究員の高橋大洋氏より、「デジタル時代のこどもたちと歩む～われわれ大人にできること～」と題し御講演をいただきました。

講演の前半では、ネットをはじめとする現代のこどもたちのデジタル利用の現状についてお話がありました。デジタル利用が生活に不可欠となっている一方で、ショート動画等の絶え間ない刺激の連続や、「おすすめ」機能により自分と異なる考えが見えにくくなっていること、文章・写真による非対面のやりとりが増え、他者との関係構築に特有の難しさが生じていることなどが説明されました。

後半では、そのような環境下のこどもたちに対し、大人がどのように関わっていくべきかについてお話がありました。大人がデジタル利用を過度に恐れたり、軽視したりすることなく、こどものネット利用を大人が対等な立場で受け止めるべきであること、またネット利用はこどもたちを取り巻く様々な問題を引き起こしている原因に見えるものの、実際は人間関係の構築をはじめとする様々な経験が希薄であるために、結果的にこどもたちがネット利用を選択しているという側面もあると指摘し、こどもの生活リズムを整え心身の健康を維持することや、生身の体験づくり等、豊富な経験やつながりを持つ大人だからこそそのサポートも重要であるとお話いただきました。

～大会当日の様子～



令和7年度新潟県青少年健全育成県民会議会長表彰の受賞者を紹介します

今年度は、青少年健全育成功労者として6名が受賞されました。
受賞された皆様におかれましては、今後も引き続き青少年健全育成に御協力を賜りますようお願い申し上げます。



○受賞者一覧

氏名	功績内容
澤村 陽一 (新発田市)	少年補導委員会の会長として補導委員の技術向上や取組意識の共有化を図るなど、少年補導委員会の発展に貢献されました。 新発田青少年健全育成市民会議の理事として青少年の現状把握、情報交換等を目的とする「青少年はぐくみ環境懇談会」の立ち上げを主導されました。
杉原 敬二 (上越市)	上越市青少年健全育成委員として長年にわたり街頭指導活動を行い、青少年の健全育成や非行・犯罪防止に現在に至るまで尽力されました。 立入調査員や特殊詐欺防止推進員として、地域の環境浄化活動等に取り組み、社会を明るくする運動や中学生との海岸清掃にも意欲的に参加されました。
田辺 和幸 (柏崎市)	市民会議高柳地区代表として大人の意識改革の呼びかけ、他団体とも連携した活動の展開等、地域の育成活動のまとめ役として献身的に励まれました。 人権擁護委員協議会委員として青少年の人権意識向上に尽力され、市民会議副会長としても、青少年健全育成に対する市民の意識高揚に取り組みられました。
椿 達也 (長岡市)	長岡市子ども会連絡協議会の理事として、単位子ども会の活動をとおして長きにわたり青少年の健全育成のために尽力されました。 こども達の体験・交流活動の充実のため、サマーキャンプや子どもフェスティバル等の企画運営に携わり、未来の青少年リーダーの育成にも尽力されました。
難波 和行 (五泉市)	村松地区青少年育成市民会議の運営委員として様々な活動に貢献され、平成25年度からは幹事として会議運営の中心的存在として活動されました。 五泉市青少年健全育成市民会議でも長期にわたって運営委員を務められ、青少年健全育成大会の受付をつとめるなど市民会議を縁の下から支えてこられました。
長谷川 澄雄 (三条市)	三条市青少年指導委員として、青少年の非行防止や犯罪被害防止のため市内の巡回、街頭指導、環境浄化活動等に精力的に従事されました。 三条市青少年育成市民会議の主要メンバーとして、市民会議で開催するこどもたちの体験活動等、様々な事業の運営に参加・協力されました。

(敬称略・順不同)

事務局からのお知らせ

【会費納入について】

令和7年度の会費につきまして、未納の会員の方は納入いただきますようお願いいたします。当県民会議は会員の皆様からの会費収入を主な財源として青少年健全育成活動を行っております。皆様のご協力をお願いいたします。

【住所変更の連絡について】

県民会議からのお知らせがもれなく届くように、転勤や引越して住所の変更があった場合は県民会議事務局にご連絡くださるようお願いいたします。